

ことぶき共同診療所だより 第26号

2008年11月22日発行

横浜市中区松影町2-7-17 リバーハイツ石川町1・2F
電話とファックス 045-651-2305(診療所) 045-305-4322(鍼灸院)

E-Mail info@kyoudouclinic.com

http://kyoudouclinic.com

発行：医療法人ことぶき共同診療所

目次

- 2008年も残すところあとわずか……………鈴木 伸 ②
- 鍼灸院より～冷えのはなし～……………新井 育子 ④
- 最近のデイケアについて～稲刈り・運動会～・高田 あずさ ⑤
- お仕事、物品カンパ 求む！・寿クリーンセンター 大平 正巳 ⑥
- “診療室から” (22)一葉の処方で思うこと……………菊田 恵義 ⑦
- なつの合宿の感想
- 泉区在住準前期高齢者(ペンネーム)・岩崎八千代・源川俊介・水島章子 ⑧
- 寿町地域ニュース・あらかると(2008年6月～11月)、新刊紹介寿町関係資料室 ⑩
- 職員自己紹介……………松原 良江・石倉 綾子 ⑫
- 診療所日誌(2008年6月～10月)……………矢島 雅子 ⑬
- 共同診療所・鍼灸院ガイド……………⑭



2008年も残すところ あとわずか

早いもので2008年も残すところわずかとなりました。日々の診療に追われていると毎日があっという間に過ぎていきます。「光陰矢のごとし」という言葉の意味を身にしみて感じる今日この頃です。例によって診療所の下半期を振り返ってみました。

【菊田先生が火曜日も診療を行います】

昨年より勤務してくださっている菊田恵義先生の勤務が1日増えました。従来は、毎週水曜日1日のみでしたが、8月より火曜日、水曜日の2日に増えました。もともと火曜日は、診療所の週初めで最も混雑が激しく、待ち時間が長くなってしまふことが多くなっていました。医師が一人増え3診体制になったことで、待ち時間の短縮と、新患患者の受け入れがしやすくなりました。今の所、若干余裕がありますので、お急ぎの方は、菊田 Dr の外来をご利用ください。

【臨床心理士石倉さんの 検査枠が増えます】

新しい臨床心理士の石倉さんにはこれまで月1回のペースで来て頂いてい

ましたが、心理判定、特に知的障害判定の検査需要が高く、月1回の検査枠では間に合わないため、月2回に増やしていただきました。これにより、患者さんの今後の支援方針が立てやすくなり、お待たせする時間が減らせそうです。また、石倉さんには毎週1回デイケアも手伝っていただけることになり、とても心強い限りです。今後も末永くお願いします。

【日野病院の研修医の受け入れ を行っています】

また、今年から日野病院で精神科研修中の2年目研修医が、毎月1日（主として第2金曜日）、寿町実習をすることになりました。これは「若い研修医に寿町のような場所があり、そこに人々が生活していることを、若いうちに知っておいてほしい」という日野病院の有馬院長先生の意向があり、当院で受け入れることになりました。当院だけでは、対応が困難であるため、自立支援施設「はまかぜ」、寿福祉プラザ、寿アルクの方々にもご協力いただき、寿の現状を直に見て感じてもらおうと努力しております。今のところ、研修の評判はなかなかのことです。研修を

受けることで、私をはじめ診療所スタッフも気合が入り(?)、また、研修医も熱心に見学されていかれるので、お互いにいい刺激になっているように思います。

【ソーシャルワーカーの設置】

いままで当院では精神科の患者さんの入院先を探すに当たり、医師が診察の合間を縫って病院に電話をし、入院の算段をするということで、外来患者さんをお待たせするということがしばしばあり、これが頭痛の種でした。しかし、今回7月よりMSW経験者の松本愛さんを、また8月より生活保護CW経験者の日野浦リサさんを、SWとして配置しました。これにより、入院調整がかなり迅速となり喜んでおります。(内科、および精神科の緊急事態ではやはり医師がやらざるをえないのですが)。また、気になる患者さんの情報について役所との間に入って情報の収集も行ってもらっています。今後も松本さん、日野浦さんには医者と関係機関のパイプ役として頑張ってもらいたいと思っておりますので、よろしくお見知りおきのほどを。

【恒例行事：夏の伊豆合宿 ・稲刈り・運動会】

もはや恒例行事となっている夏の伊豆合宿を今年も8月16日から17日の一泊二日で行いました。学習会では「僕が見てきた地域医療～佐久総合病院・諏訪中央病院・泰阜村～」と題し学生時代の実習体験を踏まえ、寿の地域医療を行っていく上で参考になりそうな話をさせていただきました。また、院長の田中先生からは「ことぶき共同診療所というアメーバの増殖過程」という題でお話があり、発足当時から現在まで、人と人の偶然の繋がりの中かで当診療所がさながらアメーバのように、無軌道に増殖してきた歴史を振り返りました。いつもながら、田中院長のユニークな着眼点には驚かされます。元人類学者の本領発揮といったところでしょうか。当然ながら海水浴、夜の花火大会、蟹取り、飲み会も行われ、夏の終わりを満喫しました。

また、9月20日から21日には稲刈り、10月17日には運動会がおこなわれましたが、こちらはデイケアの高田さんから詳しい報告があるはずですので、一読ください。

2008年もあとわずか。体に気をつけて参りましょう。

(鈴木 伸)

鍼灸院より～冷えのはなし～

季節はとっくに秋に突入しているというのに、少し動いては汗をかき、温かいものを食べては汗をかきと何だかいつもより汗をかいている秋のような気がします(私のメタボリックな体形が関係しているだけなのかもしれませんが…)。しかし、そうは言っても早いもので今年も終りが近づきつつある今日この頃です。段々と気温も低くなり、身体も徐々に冷えやすくなってきました。冷えると身体にいい事はありません。特にこれから冬にはいると、脚や腰に冷えを感じる事が多くなります。たとえ自分で冷えを感じていないとしても、お腹の調子が悪い、肩こりがひどい、頭が重い、鬱っぽいなどの症状がある時は、もしかしたら既に冷えているという可能性があります。



イラスト ikuko arai

ます。このような時に野口整体では、脚湯か足湯をするのがいいと言われています。今回は鍼灸とは少し離れてしまいましたが、自分で出来る冷え対策という事でこの方法を御紹介したいと思います。

膝下外側を押して痛い時は脚湯(膝がかくれる部分までお湯につける)、内側を押して痛い時は足湯(踝^{くるぶし}がかくれる部分までお湯につける)をします。就寝前に行ってください。いずれの場合も初めにコップ一杯のお水を飲みます。

①お湯の温度⇒脚湯の場合は入浴温度より2度位高く、足湯の場合は2度5分～3度高くする。お湯の温度が下がらないよう差し湯をしながら行います。

②時間は6分。乾いたタオルで拭き、発赤が薄い側を2分追加します。片足が赤くならない時は風邪をひいています。色が揃えば風邪が抜けます。両足赤くならない時は両足2分追加します。この時は消化器に異常があります。

③発汗したらよく拭いて下さい。

足湯のほうが手軽かもしれませんね。足湯だけでも十分効果があると思います。是非試してみてください。

(新井 育子)

最近のデイケアについて～稲刈り・運動会～

9月20日(土)から21日(日)にかけて恒例の稲刈りに行ってきました。稲刈りは作業がなかなかハードなため、体力に自信のある有志のメンバーさん5名と職員13名の総勢18名で行ないました。当日は台風が来ていたこともあり直撃も心配されましたが、日頃の行いが良い為(?)曇り空の下順調に作業ができました。

稲を刈るときのザクザクとした感触を楽しみながら、みんな夢中になって作業していました。実際私もやってみましたが、思ったよりも重労働でした。ただ刈れば終わりなのではなく、刈ったものを一定の数でまとめてひもでしばったあと、干すための台を設置しそこに引っ掛けていきます。稲刈りを始める前と終わった後では田んぼの景色が全く違うものになるので、お茶を飲みながらその変化をしみじみと眺めてみんなで達成感を味わいました。

そして先日そのお米をデイケアで食べました。みんなで田植えもやったお米なので感慨深く、一粒一粒がしっかりしていて本当においしかったです！

10月17日(金)には、今年で7回目になる運動会を行ないました。天気は運動会日よりの快晴でした。恒例のパン食い競争、女装が笑いを呼ぶ仮装障害物競争、二人の呼吸が重要なボール乗せ車

椅子競争(車椅子に乗る人は卓球玉を落とさないようにお玉の上に乗せて持ち、車椅子を押す人と二人一組で行なう)、ストレス解消にもなる大声大会(5人一組で同時に叫ぶ)を前半戦とし、後半はチームワークの必要になってくるボール回し競争、みんな夢中になる玉入れ、そして最も盛り上がる綱引きです。毎年アルクチームに綱引きで惜しくも負けてしまっていたが、今年はなんと共同診療所連合チームがアルクチームに勝利しました！(実際には連合チームにもアルクのメンバーさんに入っています。)

印象的だったのは、個人戦のときはみんなのんびりしたムードで遠慮がちなのに、団体戦になると日頃あまり調子が良くない人も積極的にがんばっていたことでした。特に綱引きのようにみんなで力と呼吸を合わせてやる競技だと頑張ろうという気持ちと団結力が自然に出てくるようです。来年以降もみんなの頑張る姿を見たいので団体戦の内容を工夫していきたいと思います。何かいい案があったらぜひ教えてください！

(高田 あずさ)

お仕事、物品カンパ **求む!** (稼動品をお願いします)

寿クリーンセンターでは、お部屋の掃除、引越し、不用品の回収など、お仕事のご依頼は勿論のこと、引き続き物品カンパも募集しております。現在不足しているものは家電製品（2000年以降の稼動品）ですが、衣類以外は受け付けています。みなさまからの寄付・カンパをお願いします。なお、申し訳ありませんが、横浜市以外の場合は引き取り運送代実費を頂く場合もありますのでご了承ください（郵送でもOKです）。

1. 家電（冷蔵庫、洗濯機、TV、ビデオ、DVDデッキ、ラジカセなど稼動品）
2. 小型家具（カラーボックス、ちゃぶ台など）
3. 日用雑貨（使用途中ではないもの）

お問い合わせ

〒231-0026 横浜市中区寿町 4-14 寿町総合労働福祉会館 1F
TEL/FAX **045-633-2608** E-mail: info@kyoudouclinic.com

(カンパあて先)

横浜銀行 元町支店 1692127
口座名義 特定非営利活動法人寿クリーンセンター 理事村田由夫

ゆうちょ銀行の振替口座 00290-6-133751
口座名義 寿町のゴミをリサイクルする会

(寿クリーンセンター 大平 正巳)

“診療室から”(22)

薬の処方で思うこと

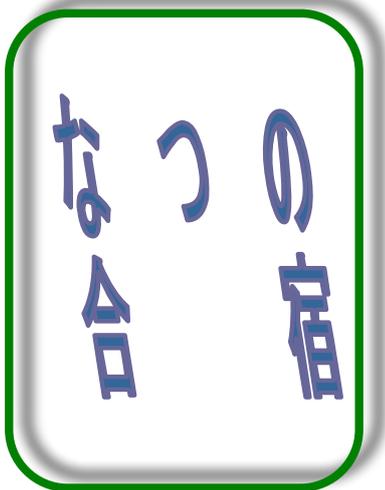
ことぶき共同診療所に勤務を開始して、早10ヶ月が過ぎました。

当診療所の患者さん方の疾患特性や生活背景、その他諸々の診療事情が少しずつ解ってきた今日この頃です。日々診療していて、自分が気になっている薬の使用に関して、少し書いてみたいと思います。

現在の精神科外来診療は薬物療法中心にならざるを得ないのは異論のないところでしょう。当診療所も、たくさんの患者さんを限られた時間内で診療する特性上、短時間で訴えを聞き処方を決定しなければなりません。こうした診療スタイルは、勢い訴えに併せて投与薬剤が多くなる弊害を孕んでいます。ここで診療を始めて日々感じるのは「とにかく併用薬剤が多い」ことです。処方箋が2枚3枚と複数にわたり、大量処方になっている方も少なくありません。こういった処方スタイルは「多剤併用大量療法」などと呼ばれ、かつての精神科医療では、ごく当たり前のこととされてきました。(話が多少横道に逸れます。「眠れない」との訴えに、睡眠剤が数種類併用されていることも珍しくありませんが、現在主流のベンゾジアゼピン系睡眠剤(例えばハルシオンやベンザリン、レンドルミンなど)は睡眠をかえって浅くしてしまうような側面もあるのです。大量の使用は逆に快適な睡眠を阻害することになるのです。)現在の精神科医はかつての多剤使用から脱却し「単剤化・適正量使用」を目指しています。薬は生体にとって異物ですから、代謝には肝臓や腎臓の働きが必要です。診療所の患者さんはアルコールの過剰摂取や糖尿病など様々な理由から、肝臓や腎臓の機能が弱っている方も多く、薬の代謝が適切に行われていない方も少なくないのです。適正量の薬剤使用はまだまだ現実には、難しいケースの方が多いのですが、出来るだけシンプルな処方、それだけ患者さんの体にも優しいのです。また、患者さんは高齢化も進んでいて、精神科だけではなく内科や整形外科など他の診療科から投薬を受ける機会も多い昨今は、薬の「飲みあわせ」にも十分注意が必要なのです。適正な処方、薬の有害な相互作用を避けることにも有益なのです。恐らく、現在の診療所の向精神薬投与量は、適正投与量の数倍になっていると思います。私も患者さんと顔なじみになってきて、皆さんが私の話を聞いて下さるようになってきましたから、今後は、患者さんにしっかりした心理教育を施して、適正な内服を行って頂けるように日々努力したいと思っております。

それでも、「いつものね」で do 処方してしまう自分て、なんだかなあ・・・です。反省！！

(精神科 菊田 恵義)



今年で夏合宿は12回目となりました。8月16日から17日に、東伊豆城ヶ崎海岸で行われました。学習会は二本立て。1日目は、鈴木伸さんから「僕が見てきた地域医療～佐久総合病院・諏訪中央病院・泰阜村～」について、2日目は田中俊夫さんから「ことぶき共同診療所というアメーバの増殖過程」について話していただきました。参考にすべき他の地域医療・農村医療の事例、私たちが辿って来た道を聞くことによって、私たちの位置を確認できたように思います。その他にも、海水浴、懇親会、カニ取りなどのレジャーをみんなで楽しみました。

恒例になりましたが、初参加者の感想集です。(編集部)

「なつの合宿」参加雑感

田中先生(個人的には田中さんと言いたいのですが大先輩に対して礼を失します)のでから合宿参加のお誘いを受け、土日だしこれとってやることもないので何となく「行きます!」と即答してしまいました。しかも、当日洗面道具、着替えの下着、シーツのみ持参の軽装。手持ち資料持参せずの体たらく。これがそもそもいけなかった、、、。現地300m手前で道に迷ったあげく、迎えに来てもらうはめに。

到着直後に鈴木先生の「地域医療について」のレクチャーがスタート、中身の濃いお話にただただ圧倒されました。マスコミ情報では得られない負の部分も知ることができましたが、地域医療の重要性について改めて認識を深めました。

翌日の田中先生のテーマは、「“ことぶき共同診療所”というアメーバの増殖過程」。福祉系にはなにやら難解なテーマ?と思いきや、先生の医者になる動機や寿の人たちに対する『熱き正義感』を聞かされ、34年前と変わってないなあ、すごいなあ、とこれまた脱帽の感あり。【田中派】が増殖するのもに訳がある、、、。

とにかく、他の参加された皆さんも熱気

ムンムン、夜の懇親会も時間を忘れ、楽しかったです(ただ、何を話して、何を聞いたのかほとんど記憶がありません。伝えるべきメッセージもほとんど発信できなかったような、、、)。あれから、もう3か月が過ぎようとして、、、。

最後に、急速に悪化する経済状況が必ず近い将来福祉や医療に携わる私たちにその役割が鋭く問われることになると思います。一緒にがんばっていきましょう。(泉区在住準前期高齢者(ペンネーム))



夏合宿に参加して

今回初めて参加させていただきました。勉強会あり、飲み会ありの楽しい合宿でした。

鈴木先生が諏訪中央病院や若月先生の話を話されていましたが、その後新聞記事やテレビなどで取り上げられて、そこに関わっている方々や取組みを知ると、改めてことぶき共同診療所の目指すものを感じられたように思いました。

また、田中先生のお話を伺いながら、スタッフのみなさんが、なぜことぶき共同診

療所にいるのかも少しですが解ったような気がしました。

来年もまた参加させてもらいたいと思います。そして、海にも行こう！

(岩崎 八千代)



こんにちは！診療所・受付の源川です！！

時が経つのは早いもので、もう11月、つい最近まで暑い日が続いていたと思ったら年末まであと2ヶ月ですね。

さて今回は「夏の診療所・合宿」についての感想ということですが、だいぶ前のことのように感じます。もう記憶の片隅に消えかけているので思い出しながら書こうと思います。

合宿当日は診療所での勤務を終えてからの参加だったので現地についたのは夕方過ぎでした。伊豆高原の別荘に泊まると聞いていて、大きくて立派な豪邸を勝手にイメージしていたので実物とのギャップにサプライズしました(笑)。イメージとは違い自然の中にある木造のログハウス風の建物で空気がおいしかったです。

本合宿のメインイベント鈴木drの「長野県の地域医療の現状」についての貴重なお話を聞かせて頂きました。寿町以外の地域医療について知ることができ勉強になりました。夕食は定番のカレーを頂きました。

夜は近くの海まで歩き、途中不気味な墓地の中を進み目的地へ到着。夜の海

を眺めながら花火を楽しみました。大勢で花火するのも学生以来で久しぶりでした。

次の日は朝から大雨に見舞われ、お楽しみの海水浴は中止になり残念な結果に、、。急遽予定変更で室内卓球をすることになり、意外と盛り上がりいい汗をかけました。

帰りは車で帰宅。結局帰り着いたのは夜9時頃。色々ありましたが、合宿という響きが懐かしかったです。また、来年も楽しみにしております。それではまた！！

(源川 俊介)



診療所に勤務させて頂くようになり、4 ヶ月が経ち、今回初めて夏の合宿に参加させて頂きました。合宿(?)は高校生以来の事でどんな事をするのだろうと、とても楽しみでした。診療所の仕事を終え、川崎さんの運転する車で伊豆の城ヶ崎海岸へ向いました。いきなりハプニングが起こり、厚木で高速を降りなくてはならないのに、通り過ぎてしまい、箱根越えで行く事になり、霧に覆われ前方も見えない山道を進み、最後は鹿の出迎えを受けてやっと到着。途中、とても夜景がきれいなところもありました。

藤枝さんが、小屋と言っていたのでどんなところかと思っていたら、とてもすてきな別荘でした。まず、みんなで乾杯し、お風呂に入って就寝。朝起きて、ゆで卵、サラダ、トーストの朝食をとり、これまた何年かぶりの海水浴をしました。

川奈近くの「川奈海水浴場」で、海水はとてもきれいで、ブルーの小魚がたくさん泳いでいるのがみえました。童心に帰り、楽しい時間を過ごしました。昼は海の家で焼きそばorラーメンを食べ(今度は絶対ラーメンにするぞ!!)、のんびり過ごし、城ヶ崎へ戻り、カレーを食べて蓮着寺の海岸で花火大会。伸先生は蟹取りに忙しく、この集中力はみならわなくてははいけないなあーと感心。

勉強会は、俊夫先生の“ことぶき共同診療所の歴史”。12年間の流れ、開院当初患者数 22 人、今では朝の受付け時、診療所の外で列を作っている患者さんの数

がそれ以上です。やはりこの 12 年間の積み重ねはすばらしいです。身にしみました。

そして、伸先生のお話は“泰阜村の保健・医療・福祉の歩み”。地域によって高齢者に対する考え方の違いに驚き、終の住みかについて考えるきっかけになりました。

合宿はとても楽しかったです。また来年も是非参加したいです。

(水島 章子)

寿町地域ニュース・あらかると (2008年6月～10月)

【簡易宿泊所】(仮称) 東会館新館建築中('08.11) / (仮称) 扇荘別館建築予定('08.11) 【福祉】 はまポート作業所開所('08.6) 【ニューレター】 「寿福祉プラザ相談室より (地域版)」 創刊('08.7) / 「はまかぜ」 第3号刊行('08.11) / 「寿クリーンセンターニュース」 創刊('08.11) 【仕事作り】 寿クリーンセンター物品販売開始('08.6.3) 【医療】 まこと心のクリニック不老町に開設('08.10) / グリーン薬局松影町(新横浜通り)に開設('08.10) 【芸術】 センターの壁面一杯に「永遠の開拓者たち」(浦田琴恵作)が作られる('08.9 右の写真参照) 【防災】 第3回防災パレード・コンサート('08.10.28 下の写真参照)



新◇刊◇紹◇介

牧野富夫・村上英吾編著『格差と貧困がわかる20講』



本書の各講は、2007年度から日本大学経済学部で開講中のオムニバス授業「格差社会」の講義内容がもとになっています。講師は、研究者を始めとして、ジャーナリズム・医療福祉・労働などの現場で「格差と貧困」の問題に取り組んできた人ばかりです。

編著者の1人で本授業の主催者は、これまで寿医療班で活動を続けてきた村上英吾さんです。以前共同診療所と共同で食生活調査を実施したこともあります。また当所の鈴木伸医師や資料室の松本も執筆しています。それぞれ、移住労働者にみる「もう一つの格差」、医療格差問題、社会福祉の各側面から「格差と貧困」の問題について取り上げています。ぜひ、一度手にしてみたいかがでしょうか。なお、寿町関係資料室の蔵書の1冊です。

(256ページ、明石書店、2008年7月20日、1800円+税)
(寿町関係資料室)

職員 自己紹介

松原
良江

6月から週2回、受付事務とデイケアで仕事をするようになりました松原です。

「寿」の町に最初に出会ったのは20代初め。関わったのは1年ぐらいだと思いますが、確かその頃、町の自治会結成のためにつくられていた「寿しんぶん」を5円程度で読んでもらうためドヤの部屋をまわっていたな～と40年近く前のことをいろいろ

思い出されます。そして再び「寿」の町と関わることに人生の巡り合わせ、不思議さを感じてしまいます。余談ですが前に田中俊夫さんから昔の写真を見せられ20代の自分を見つけだせないほど「身」が大変身していることに愕然としたことがありましたが、「元気さ」だけはあの頃と変わっていないと勝手に思っています。

デイでの20人分位の食事作りは当初とまどいでしたが、そのコツは「おおよそ」「だいたい」ということで私の性格にぴったり。すぐ慣れました。しかし受付の仕事は、覚えては忘れの繰り返しですが、今後ともサジをなげずにいろいろ教えてください。

石倉
綾子

皆さん、こんにちは。石倉綾子と申します。4月から心理検査の担当と、10月からはデイケアにも入らせてもらっています。3月に大学院を卒業したばかりで(年齢はそれなりにいっていますが)まだまだ駆け出しです。微力ながら頑張りたいと思いますので宜しくお願い致します。趣味はトレッキングです。気合いは入っていないので低い

山専門ですが、この夏はがんばって富士山に登ってきました。

この街の方々と接していると、人の幸せとは何だろう？とあらためて考えさせられます。私に関わるのはほんの少しだけど、何ができるのだろう？とか…。

しかし頭の中とは裏腹に、スタッフの方々の明るさや患者さんメンバーさんの気さくさに支えられ、診療所ではいつも楽しく過ごさせてもらっています。会話を聞いているだけで思わず笑ってしまうこともしばしば。結局は日々、できることをできる範囲でやっていく、ただそれだけなのかも、と皆さんの笑顔を見ながら感じている今日この頃です。これからも宜しくお願いします。

診療所日誌

2008年6月～10月

6月 新患さんは相変わらず多いです。

- 6月3日 寿クリーンセンター、リサイクルショップ始める。松原さん、アルバイトとして診療所勤務
- 6月6日 第2回てんぷら祭り開催
- 6月7日 山谷から見学者10数名見える
- 6月25日 結核DOTSカンファレンス(1回目。以後月1回定例化)
- 6月26日 神奈川病院で研修中の方、1日寿で実習へ。本日、カルテ4000枚となる

7月 医師を目指している方、医学部生、研修医と訪問の多い月です

- 7月1日 信州大学医学部6年のOさん、一週間実習へ
- 7月2日 松本愛さん、ソーシャルワーカーとしてデビュー
- 7月4日 「ことぶき共同診療所だより25号」発送
- 7月10日 研修医の方、2名見学に来られる。デイケアMさん、自転車に乗って静岡へ
- 7月11日 日野病院の研修医の方、月1回寿で研修をすることとなる
- 7月12日 健康診断対応として、視力表設置
- 7月17日 DOT Sの方が2名入院。
- 7月18日 松本から高校生・予備校生・医学部学生さん、10数名見学にみえる
- 7月31日 デイケアメンバーさんの入院相次ぐ

8月 今年も暑い・熱い夏。毎日点滴まつりです。寿福祉プラザとの連携増える。

- 8月2日～3日 デイケア、稲子で川遊び、バーベキュー
- 8月6日 結核DOTSのSさん、内服できずに点滴対応となる
- 8月16日～17日 夏合宿(於：伊豆城ヶ崎海岸)
- 8月20日～25日 夏休み
- 8月26日 夏休み明け、皆さん大きな変わりはある

りませんでした。新患さん多し。この日、日野浦リサさん、ソーシャルワーカーとしてデビュー

- 8月28日 デイケアNさん、担当CW等とカンファ。年金生活をされているHさんのことで、プラザとのカンファ。

9月 処置が増えてまいりました。

- 9月2日 菊田Dr. 毎週火曜日診察開始
- 9月9日 スリップ者相次ぐ。
- 9月12日 日野病院入院中のKさんの件で、カンファ
- 9月16日 デイケアメンバーさん、借金問題等噴出
- 9月20日～21日 デイケア、稲子で稲刈り
- 9月24日 第3回てんぷら祭り
- 9月25日 受診者数265名。最高記録更新
- 9月27日 認知症のFさん、部屋に戻れず1週間ぶりにセンター前で発見

10月 DOT Sの患者さんが相次いで亡くなる

- 10月2日 心理の石倉さん、デイケア担当として週1回勤務
- 10月3日 本牧の渡辺皮膚科クリニックの渡辺Dr. が褥瘡処置のため診療所へ往診に来てくれる
- 10月4日 みなと赤十字病院の精神科病棟の医師・看護師さん見学に見える
- 10月9日 運動会準備のため関係機関との会議
- 10月10日 鍼灸院に直通電話つく
- 10月11日 患者Oさん、施設を抜け出し、5年ぶりに寿へ戻る
- 10月17日 大運動会開催
- 10月21日 看護師小坂さん、勤務開始
- 10月24日 デイケアNさん、「はだしの邑」見学
- 10月30日 整形外科外来は、装具についての相談多し、毎週技師さんに来てもらっている
(矢島 雅子)

医療法人 ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

◇診療科目 精神科 神経科 内科
整形外科 鍼灸

診療所

	9時30分	12時	14時	17時30分
月	休 診			
火	鈴木伸・天田・菊田	昼 休 み	鈴木伸・天田・菊田	精神科・神経科・内科
水	天田・菊田		天田・菊田	精神科・神経科・内科
木	田中・鈴木伸・大脇		田中・鈴木伸・大脇	精神科・神経科・内科・整形外科
金	鈴木伸・天田		田中・天田	精神科・神経科・内科
土	鈴木伸・三橋		整形外科・精神科・神経科・内科	

鈴木美奈子(第2・4土曜エコー検査)

鍼灸院

(鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください)

	9時45分	13時	14時	18時
火	新 井	昼 休 み	新 井	
水	新井・富永		新井・富永	
木	新 井		新 井	
金	新 井		新 井	

○保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護 障害者自立支援(その他、医療福祉相談も受け付けています)

○心理判定(月2回)

○寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

◇共同診療所・鍼灸院の所在地

横浜市中区松影町 2-7-17
リバーハイツ石川町 1・2F

◇でんわとファックス

(045) 651-2305 (診療所)

(045) 305-4322 (鍼灸院)

e-mail info@kyoudouclinic.com

◇ホームページ

<http://kyoudouclinic.com>

2008年11月22日現在